

## ロマン・スタッフ・カリキュラム

東京都台東区立大正小学校教頭 佐久間 茂和

新校舎改築委員会の一員として、オープンスクールの校舎を始めて見た時には、「こんな校舎でどうやって授業をするんだろう。」というのが正直な感想だった。

始めてオープンの学習を見学した時、カルチャーショックを受けたのは事実である。しかし、ショックから立ち直ると、もうオープンの虜になっていた。今まで不満に思っていたこと、やりたいと思っていたことが、オープンの校舎ならなんでもできると思ったからである。それどころか、今まで考えもしなかった学習形態が眼前に展開したのであるから、狂喜乱舞に近い興奮状態であった。

あのカルチャーショックから13年が経った。人が皆自分と同じだとは思わないが、オープンの校舎で過ごせば、少なくとも自分と同じようにカルチャーショックを受け、今までの教育にいくつかの疑問を持つのが当然と思っていた。しかし、そうではない人もいるのだと段々と気がついてきた。せっかくオープンの校舎に入っても、壁を作ったとか、今までとなんら変わらない授業をしているという話を聞くと寂しくなる。

最近、「個性化教育を推進したいのが、どのような点が大切か。」等の情報提供を求められることが多くなつた。

確かに今まで通りの教育を実践することの方が簡単である。楽である。疑問を持っていないも多いかも知れない。しかし、よく考えてみたい。一人一人の意欲や関心に応えていただろうか。一人一人の学習課題を大切にしていただろうか。一人一人の学習の状況を把握していただろうか。一人一人の評価を充分していただろうか。複数の教師の能力を十二分にいかしていただろうか。こう考えてくると個別化・個性化の実践がいかに生まれ発展したかがよくわかる。まずは、現場の教師の日常の疑問や課題に応える実践として、個別化・個性化が生まれ、全国で其感を得て実践が広がってきた。明日を担う子どもたちのために何が必要か、明日の教育を切り開くにはどうしたらよいか。

現在の個性化教育の流れは、先進校と全国に広がる実践者のロマンと努力で大きなうねりとなって展開していると言っても過言ではない。

私が、個性化教育、オープン教育に取り組む重要な要素として挙げてきたものは「ロマン

・スタッフ・カリキュラム」の3つである。ロマンを最初に挙げているのは、長くなつたが以上のようない理由からなのである。

いくらロマンがあつても、一人では単に学級だけの実践となってしまう。個性化教育が従来の教育の潮流の中でも特異なのは、学校全体の取り組みとして全国的に広がっているということである。これは日本の教育に例を見ないことがある。これは指導をされてきた加藤幸次先生、緒川小学校を始めとする先進校の影響はもちろんあるが、個性化教育自体が学校全体の取り組みをもつて成果をあげる構造を持っているからである。そこで、「スタッフ」と「カリキュラム」が重要になってくるのである。

スタッフには、管理職・研究スタッフはもちろんのこと、校務分掌等を通してくわしく運営も含まれる。これについてよくわざくわざ延べると必要なだけあえて延べるとすれば、「育つ」は「集める」のではなく、「育つ」のだというこであろう。ロマンを語ることによって、議論を通して、日々の実践や研究実践を通して、「育つ」のである。

いくら素晴らしい研究実践をしても、本年度限りというパターンの学校が多いようである。時間をかけて練った指導案や時間と労力の成果の資料が、研究実践が終われば、反省会の酒と一緒にあつといいう間に散逸するというパターンをいやといいう程見てきた。例えば6回の研究実践を5年続けたとすると30単元になる。5年で30単元の学習が変わるものである。何ヵ月も準備したことの100%という訳にはいかないだろうが、その何割かが実践されれば、これはすごいことである。

指導計画だけでなく、ノーチャイム制や〇〇学習のような個別化・個性化の学習枠の設定、あるいは体験学習やイベントをカリキュラムとして位置づけることが「カリキュラム」の意味である。

私の勤務校もそうであるが、これからも統々とオープンの校舎が増えるだろうと予想される。できるだけ多くの素晴らしい校舎が活用され、本来の機能を發揮し、新しい教育活動が展開されることを祈ってやまない。

## 新理事決定まる

平成7年度の理事を、平成6年度に引き続きまして下記の方々にお引き受けいただくことになりました。よろしくお願ひいたします。なお、交代を予定されている等の新理事の方々につきましては、確認の遅れなどで、お名前が載っていない場合があります。ご了承下さい。

(平成7年4月 現在)

会長 染田屋謙相(東京・元板橋区教育長)  
副会長 加藤幸次(東京・上智大学教授)

理事 永地正直(東京・生涯学習研究所主宰)  
岩崎誠一(教育環境計画研究所長)

大井秀夫(北海道・前帶広第5中校長)  
小川清(北海道・前啓西小学校長)

坂井輝幸(北海道・栄小学校長)  
佐藤有(北海道教育大学文部教官)

五十嵐庸(福島・大越小学校長)  
齊藤健一(福島・飯野町教育長)

武藤義男(福島・前三春町教育長)  
野村裕子(福島・郡山市教育委員会)

○江連富男(埼玉・吉岡中学校長)  
○山崎和雄(埼玉・八幡小学校長)

○徳永隆憲(千葉・PTA連絡協事務局長)  
○坂地澄夫(千葉・五郷小学校教頭)

○石坂和夫(国立教育研究所室長)  
○上山英昭(東京・十文字学園短大講師)

○行徳高徳(目黒区教育研究所所長)  
○久保田滋(東京・芦屋大学教育学部)

○清水正三郎(東京・大東文化大学教授)  
○志茂暁子(東京・月光原小学校長)

○高浦勝義(国立教育研究所室長)  
○永井タケ子(町田市南第三小学校教頭)

○平野朝久(東京学芸大学助教授)  
○松野康子(東京・黒門小学校長)

○浅沼茂(東京・東京学芸大助教授)  
○小堀常子(町田市小金井小学校長)

神代醇一(静岡・島田市教委教育課長)  
青木昭平(新潟・黒崎町教委教育長)

松原雅子(富山・入善町上青小学校)  
上島賢一(富山・入善町野中小学校長)

松下晴彦(愛知・裾山女学園大助教授)  
皿井信(愛知・二川南小学校長)

鈴木正幸(神戸大学教授)  
長田勝男(沖縄・那覇市教育委員会)

渡久地政吉(沖縄・那覇市教育研究所長)  
……東海個性化教育研究会……

理事○新美一成(会長 東浦町教育長)  
○村田武雄(副会長 島田市教育長)

○川瀬義明( " 池田小学校長)

今泉昭郎(愛知・稻武小学校長)

増田智治(静岡・初倉小学校長)  
古木米治(静岡・六合中学校長)  
中山都義(静岡・初倉南小学校長)  
森幸彦(三重・松阪市第一小学校長)  
薩谷信(愛知・片倉小学校長)  
柳川崇文(愛知・卯ノ里小学校)  
魚住忠久(愛知教育大学教授)  
竹内通夫(金城学院大学教授)  
成田幸夫(監査 大府中学校教頭)  
横山謙二(監査 森岡小学校)  
稻葉耕一(事務局長 緒川小学校長)

……九州個性化教育研究会……

理事○前崎敏雄(会長 第一経済大助教授)  
○荒木隆(副会長 福岡教育事務所長)  
○宮里朝景( " 冲縄・具志川市教委)  
加藤幸次(顧問 東京・上智大教授)  
○三原英雄( " 福岡・春日市教育長)  
村田喜一郎(福岡・北九州教育委員会)  
野口良治(佐賀・山内西小学校)  
中島増夫(鹿児島・前加世田小学校長)  
松尾法夫(福岡・宗像市東郷小学校長)  
田中普(福岡・教育事務所主事)  
柏木順子(福岡・田川市立中央中教頭)  
竹浦ミトカ(福岡・久山町立幼稚園長)  
木下啓作(福岡・北野小学校教頭)  
池田信一(福岡・志免西小学校)  
白水明(福岡・教育事務所)

……関西個性化教育研究会(予定)……

理事○中井良興(会長 但東中学校長)  
○鈴木正幸(副会長 神戸大学教授)  
○長道國順( " 遠喬小学校長)  
坂本邦夫(顧問 神戸学院女短教授)  
須田勇( " 神戸海星病院顧問)  
加藤幸次( " 東京・上智大教授)  
辰巳昌男(兵庫・清和台小学校長)  
本岡志東(兵庫・多聞台小学校教頭)  
堀真一郎(和歌山・きのくに子ども  
の村学園長・校長)

相良敦子(京都・滋賀大学教授)  
石川克彦(兵庫・合橋小学校長)  
蓬郷和男(岡山・元遠喬小学校長)  
末方鐵郎(兵庫・尼崎教育総合センター)  
塩川剛三(兵庫・但東町教育長)  
今谷順重(兵庫・神戸大学教授)  
大矢晟(兵庫・梗野台小学校校長)  
中井良宏(三重・松阪大学教授)  
戸江茂博(兵庫・頌栄短大助教授)  
D.Willis(兵庫・相愛大学教授)  
石田光(大阪幼少年教育研究所長)

理事 黒瀬杏三 (兵庫・稗田小学校長)  
 " 上村元正 (兵庫・山崎東中学校長)  
 " 三木堅吾 (兵庫・豊岡町三江小学校長)  
 " 山本鉄三 (兵庫・神戸市櫻野台小学校長)  
 " 谷口育史 (事務局 神戸市櫻野台小)

(○印は常任理事)

\*理事の方々の記載事項に誤りがありましたら  
事務局までお知らせください。

### 平成6年度 全国個性化教育研究連盟

会計報告 1995.3.31

#### ○収入の部

種別	予算	決算	備考
個人会費	1000000	1017000	3000円
団体会費	220000	200000	5000円
東海個研	70000	82000	1500円
事業収益	100000	103000	会誌売上
繰越金	181102	181102	定期解約
預金利子	1000	13500	
その他	50000	166138	研参加費
合計	1672102	1763240	

#### ○支出の部

款	項目	予算	決算	備考
事業費	研究研修	70000	70000	
	広報活動	700000	648875	
	研究発表	70000	70000	
	支部活動	100000	89600	
	会議費	80000	53000	
事務費	事務費	105000	62117	
	連絡通信	500000	687882	
	消耗品費	45000	42500	
	諸費	20000	3360	
予備費		2102	0	
合計		1672102	1727334	

○差引残高 35906円

・上記の通り決算報告いたします。

平成7年3月31日

会長 染田屋謙相

事務局長 高浦 勝義

会計部長 中澤 米子

・監査の結果、相違ないことを認めます。

平成7年3月31日

会計監査 行徳 高徳  
 " 石坂 和夫  
 印章省略

### 平成7年度 全国個性化教育研究連盟

会計予算案 1995.3.31

#### ○収入の部

種別	予算	決算	備考
個人会費	1000000		3000円
団体会費	220000		5000円
東海個研	90000		1500円
事業収益	110000		会誌印税
繰越金	35906		
預金利子	1000		
その他	10000		
合計	1536906		

#### ○支出の部

款	項目	予算	決算	備考
事業費	研究研修	30000		
	広報活動	650000		
	研究発表	70000		
	支部活動	80000		
	会議費	20000		
事務費	事務費	50000		
	連絡通信	600000		
	消耗品費	35000		
	諸費	1906		
合計		1536906		

### 平成7年度 活動計画

会誌「個性を育てる」第8号の発行

6月の発行をめざして、最後の準備を進めています。今回は、「個性の捉え方」をテーマに論文を11本収録します。

第1回 國際研修会

8月1日(火)~2日(水)

於 福島県田村郡三春町立桜中学校  
 中郷小学校

新しい学校と個性化教育をメインテーマに町をあげて先進的に個性化教育に取り組んでいる三春町を会場に開催します。奮ってご参加下さい。

## 会報の発行

本年度は、この33号から、8月の34号（夏季研修会特集）、11月の35号（学期研究会特集）、2月の36号（各校の発表会特集）を計画しています。情報満載かつタイムリーな紙面にご期待ください。

## （事務局組織分担）

事務局長 高浦勝義

庶務部	○佐久間茂和（東京） 等々力美津子（東京） 原崎 佑子（東京） 加藤 浩子（東京） 成田 幸夫（愛知） ※東海個性化研究会 池田 信一（福岡） ※九州個性化研究会 谷口 育史（兵庫） ※関西個性化研究会 加藤 幸次（東京） ※全国連絡担当
会計部	○中沢 米子（東京） 橋本 享子（東京）
編集部	○三浦 信宏（千葉） 安達 幸（千葉） 松田 早苗（千葉） 笹原 悟（千葉） 長谷川 信（千葉） 加藤久美子（千葉）
広報部	○鎌岡 茂樹（神奈川） 小久保晶良（埼玉） 太田 始（東京） 加藤 勇（埼玉） 中田 泰志（埼玉） 荻久保公秋（埼玉）
研修部	○河合 剛英（神奈川） 池田伊三郎（神奈川） 多田 信夫（埼玉） 並木 康成（神奈川） 中山 正則（埼玉） 松浦 盛人（埼玉）
個性	・個性の捉え方（文献研究 ・基礎研究・歴史・国内外） ○高浦 勝義（東京） 永地 正直（千葉）

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉  
〒115 東京都北区赤羽南1-16-2-504  
03-3903-4780 庶務部長 佐久間茂和

## プロジェクト組織

TTT…学校の実態調査・在来の教室での実践・方法的アプローチ	河合 剛英（神奈川） 並木 康成（神奈川） 金井 孝（東京） 三浦 信宏（千葉） 中澤 米子（東京） 多田 信夫（埼玉） 中田 泰志（埼玉）
○奈須 正裕（神奈川）	等々力美津子（東京） 原崎 佑子（東京） 内藤 和久（山梨） 植田 由紀（千葉） 岩田 泰治（埼玉） 荻久保公秋（埼玉） 松浦 盛人（埼玉） 加藤久美子（千葉） 安達 幸（千葉） 笹原 悟（千葉） 長谷川 信（千葉） 加藤 勇（埼玉） 小久保晶良（埼玉） 山口 慎吾（埼玉）
学習材…整理と活用	○川島 良代（東京） 堀竹 蝶子（東京） 橋本 享子（東京）
環境…オープンスペース・校具	・学習環境・生活環境 館岡 茂樹（神奈川） 佐久間茂和（東京） 加藤 浩子（東京） 松田 早苗（千葉）
追跡…オーブンの子どもの変容	○浅沼 茂（東京） 松本 光弘（千葉） 中山 正則（埼玉） 池田伊三郎（神奈川） 太田 始（東京） 久保田 滋（東京） (○印は各部の部長)

全国個性化教育研究連盟会報 第33号  
平成7年5月20日発行  
編集責任者 事務局長 高浦勝義  
編集 広報部 鎌岡茂樹